

# TOPPOS

TOKIWA POST

VOL. 38  
SUMMER

常磐大学  
大学院 国際学部  
人間科学部 コミュニティ振興学部  
常磐短期大学

常磐大学高等学校  
常磐大学幼稚園

[ 2005.7.1 ]

発行 / 学校法人 常磐大学 編集 / 常磐大学広報課 水戸市見和1丁目430-1 電話 029(232)0007 http://www.tokiwa.ac.jp/

常磐大学情報メディアセンター新館・竣工記念式典開催

## 情報教育・研究をリードする “デジタル体感スペース”誕生!

Media and Information Technology Center



85台のパソコンが設置された「PC学習室」。無線Lanを利用して個人のノートPCもインターネット接続できる。

隣のQ棟とマッチした、半円形でモダンな「情報メディアセンター」。



学内外の関係者が多く集まった「竣工記念式典」(左)。メディアセンターのエントランスで行われたテープカット(右)。写真左より、常磐大学・系賀常任理事、茨城大学・田切学長補佐、常磐大学・諸澤理事長、常磐大学・高木学長、常磐大学・阿部センター長。

**先進の情報教育を行うリーディングケースとして**  
情報化社会に対応する教育を推進するため、本学は2005年、情報メディアセンターを新たに設置。それともない5月26日、「常磐大学情報メディアセンター新館・竣工記念式典」が開催され、学内外の関係者に充実した施設・設備の紹介が行われた。  
式典では諸澤英道理事長が「私は一昨年の理事長就任にあたって、情報教育・国際教育に力を入れるため法人全体で新たな体制で取り組みたいと考えました。そして情報化推進会議・国際化推進会議という2つの大きな会議を立ち上げ自らが座長となって取り組み

をはじめたわけです。今後、この分野において学校法人常磐大学が我が国のリーディングケースとなれるよう、全職員一丸となって取り組みたいと考えております」と挨拶し、本学が進むべきビジョンを明らかにした。  
その後、情報メディアセンター・エントランスで諸澤英道理事長、高木勇夫学長ら5名によるテープカットが行われ、施設案内へ。1階のパーチャルスタジオやCALL教室などを見学した関係者一同は、その先進的な教育システムに驚きを隠せない様子だった。  
**情報関連施設を統合し多くのメリットを生む**  
情報メディアセンターの最も大きなコンセプトは、これまでキャンパス内に点在していたコンピュータ関連の教室や施設などを統合し、一カ所に集中させること。情報機器を学部・学科を超えて共同で使用することにより、教育・研究における利便性を図るとともに、関連する授業を効率良く進めることができるなど、多くのメリットがもたらされる。また、実写とCG(コンピュータグラフィックス)の合成が行える「パーチャルスタジオ」には、メディア関連の教育・研究に必要な機材を多数整備。パーチャルスタジオで撮ったビデオを編集したり、地上波デジタル放送やCS放送などを録画するなど、映像・音声の編集も行える。42台のパソコンが設置された「CALLラボ」には、ネットイブスピーカーの音声波形で見られるソフトや英語をはじめとする学習ソフトが挿えられ、語学学習のための機能が充実している。他にも、50台のパソコンが設置された「PC教室」が5室、最新のマッキントッシュが30台設置された教室、さらに、85台のパソコンが設置された「PC学習室」などが学生たちの情報関連学習をバックアップする。  
このように最新の設備を誇る「情報メディアセンター」は、常磐大学の新しい情報拠点として注目を集めている。

### 自然と人との共生を考えさせる夏の浮き草。

◎シリーズ38 アサザ

アサザは北海道を除く全国各地の池や沼に生える、多年草の浮き草。湖底の泥の中を地下茎が横にはい、太く長い茎が水面に伸びています。葉は直径5〜10センチくらいの円形で水面に浮かび、6〜8月にふちがフリルのようになった黄色い小さな花を咲かせます。名前の由来は「朝に咲く」から、また、浅瀬に咲くから、などさまざま。昔はよく群生していましたが、現在はすっかり希少な植物になってしまいました。  
アサザは小さな植物ですが、群生することで高い環境形成機能を発揮することが知られており、麗ヶ浦でも美しい環境を取り戻すための「アサザプロジェクト」が推進されています。アサザは、それ自体が水質を浄化する機能を持っているだけでなく、強い波をやわらげる波除けとなり水辺に砂浜や浅瀬を作ります。そこにたくさん植物が育ち、虫や小さな魚が返ってくる。すると生態系が形成され、美しい自然が育まれるわけです。本部棟前の池に棲息するアサザを観賞しながら、自然と人が共生できる環境について、少しだけ思いを巡らすのもいいかも知れませんね。



常磐四季





2005年4月に就任した新学長メッセージ  
学生を大切に  
地域と双方向に結ばれた大学をめざして。



常磐大学・常磐短期大学 学長  
高木 勇夫

### 「学際性」「国際化」「情報化」を柱に、学生の意欲に応える環境整備を推進。

常磐大学・常磐短期大学は、学生に「この大学で学んでよかった」と実感してもらえる大学、保護者のみなさんには、自分の子どもを入学させたいと思ってもらえる大学づくりに力を注いでいます。そのために、「わかる授業」と「親切で親身なサービス」の実践を心がけ、ゼミをはじめとした授業、合宿研修、就職活動など、学生生活のあらゆるシーンで、きめの細かな指導にあたっています。

学内の推進課題である「学際性」「国際化」「情報化」については、それぞれ具体策を講じて環境整備を進めています。学際性の面では、短期間に集中的に学習できる「セメスター制」を採用し、自由に選択できる履修の枠を広げました。また、「相互乗り入れ方式」を採用して、専門分野のみならず、他の興味のある分野の履修ができるようにして、学生の総合的、学際的な研究活動を支援しています。国際化に関しては、2004年度から海外の大学との交流を活性化し、「エクスチェンジプログラム」を導入。情報化については2005年度に完成した情報メディア

センター、国際交流語学学習センターを拠点に、より高度な情報教育を進めています。また、本学は「地域に開かれ、地域に発信すると同時に、地域から受信する双方向の大学づくり」をめざしています。そのために、地域住民・企業・行政などとネットワークを構築し、産官学連携による研究を積極的に推進。それとともに、地域の問題解決に本学の教育資源を投入し、地域住民の生活向上に向けた生涯学習の場と機会を提供するほか、国際被害者学研究所の研究、心理臨床センターや博物館学博物館の活動などにも力を入れています。

たかぎ いさお  
専門/地理学、自然環境論、地域計画、地域政策論 ●横浜市立大学文理学部卒、日本大学大学院理工学研究科博士課程単位取得退学。理学博士(日本大学)。現在、独立行政法人・防災科学技術研究所客員研究員。日本大学教授、慶應義塾大学教授を経て、2005年4月より現職。

### 只今授業中!

地域金融論  
人間科学部・原伸一先生



情報に流されず  
実務に裏付けられた  
判断力を!

### 現場の声を聞き実務的能力を養う

本経済・金融分野の今日的課題を探る原伸一先生の「地域金融論」で、水戸信用金庫で実務につく職員の方を特別講師に迎えた授業が、5月19日から3回にわたって展開されている。

この授業は理論だけではなく、現場の雰囲気を知ることで金融に対する理解力を高め、実務的な素養を学生たちに養ってもらうために始められた試み。



当金庫としても、若い方たちに金融の現場を理解していただきたいという思いは常にありました。この講座を通して、実務的な素養を身に付けていただきたいと思っています。



[第1回担当]  
人事部  
小原 賢一さん

100名を超える学生が集まった『地域金融論』の授業。教室がほぼ満席という状況からは、学生たちの地域金融に対する関心の高さがうかがえる。



[第2回担当]  
個人市場部  
宮野 一将さん

普段の生活では、あまり馴染みがない金融機関に対して、興味を持っていただきたいと思います。地域の金融機関がどういうことを行っているのかを理解し、学生のみならずが将来的に、地域を担う人材として活躍していただけると嬉しいですね。



[第3回担当]  
情報開発部 金融情報センター  
岩 淵 剛さん

からも学生たちの関心の高さを知ることができ。茨城県及び北関東各地の出身者が多く、地元での就職を希望するものが多い本学学生のニーズを捉えた授業だと言つて可以的。

金融を軸に地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学には講義を受けてから、その後、継続して受講するかどうかを学生自身が決める受講登録制があるが、平均して30名から50名の受講生を集める選択科目の中でも、100名を超える受講生を集めたこの「地域金融論」は、その数の多さから、



常磐大学連合同窓会 会長  
中崎 啓子

本年2月1日に水戸市新荘(常磐高校の傍)に常磐大学同窓会館が完成いたしました。全体が明るい色調の木造一部鉄筋コンクリート造り二階建ての素敵な建物です。特に松井エイコさんの「共に見いだす時」のステンドグラス作品が、心温かく迎えてくれます。会館の中へ一歩足を入れただけでも、時間のたつのを忘れそうな感じがします。

連合同窓会は、各学校の卒業生によって組織する同窓会の自主性を尊重し、連絡協力機関としての連合同窓会を組織することにより、各々の同窓会組織・事業を支援し、各組織間の協力体制を整え、学校法人常磐大学の発展に寄与することを目的としてスタートしました。

社会情勢の急激変化の中で「生きる力」や「豊かな心」が求められる時代だからこそ、連合同窓会の皆様一人一人が手をたすませて目標達成ができますよう願っています。どうぞよろしく願っています。



### 常磐大学連合同窓会 会長あいさつ





F・1への登竜門といわれるフォーミュラ・ニッポン。国内最高峰といわれるこのレースに本学OBの加藤正将さんがスポット参戦した。新しいステージに立つ加藤選手に、今後の抱負を聞いた。

国内最高峰のレースといわれるフォーミュラ・ニッポン(F・ニッポン)に本学OBの加藤正将選手が参戦した。昨シーズンはF・4を舞台に東日本シリーズでチャンピオンを獲得した加藤選手は、3月22日に行われたF・ニッポン第2回公式合同テストに参加し、キーテストに合格。ツインリンクもてぎで4月2、3日に開催されたF・ニッポン開幕戦でTeam MOHNのシートを獲得し、出走台数16台中13位という成績を残した。

「もうちょっと、上に行きたかったというのが本音です。ピットインのタイミングのずれが若干あったので。ただ、自分の実力やクルマの状態などを総合的に判断すると、この順位だったんじゃないかとは思っています」

### 限界を感じるまで、F1への挑戦は続く!

加藤 正将 ●レーシングカー・ドライバー 国際学部・国際ビジネス学科卒

「もし、万全の体制で13位だったらレースをやめるかも知れない。でも完璧ではない状況だったので、まだまだ上にあがる要素はたくさんあるはずなんです。そう考えると、今回のレースで自分に限界を感じることは、まったくありませんでした。だからレースを続けていけるんだと思います」



### Webショップのオープンをめざして!



安蔵 桂子 ★MINT代表  
佐藤 珠美 ★MINTスタッフ

イラストは、人の心をつなぐ架け橋だと思ふ。

「素直に嬉しかったですね。でもそれと同時に興味として描くこと、依頼を受けて描くことの違いも感じました。自分で気に入った作品でも、クライアントの反応が悪かったり...。そんな中で、誰もが納得するまで描き直す根気強さが身に付きました」

### きりりびと KIRARIBITO

「空想ものを描いたり抽象的なものを具体化したりするためには、資料を見て、テーマや内容を完全に消化する必要があります」



●ポプラ社より刊行されているSFセレクション「地球最後の日」。大枝さんのイメージイラストが表紙を飾っている。

「最初は自分たちで作っちゃえ!って代表を務める安蔵さんは、基本的にデザインとwebを担当している。」「最初は自分たちで楽しんでいいんだけど、だんだん周りに欲しいという人たちが増えてきて、自然に販売しはじめた感じですね。でも、最初に出したフリーマーケットはさんざんでした。場所は東海村だったんですが、」

「表紙に惹かれて、本を手にとってありますよね。そういう意味で、イラストは人と人をつなぐ一種の架け橋だと思ふんです」

「販売の中心だが、水戸市内の雑貨店で依託販売も行っている。」「それから、ホームページも立ち上げたんですよ。どうせなら、他県の人たちにも見てもらいたいじゃないですか。もっと勉強して、将来的にはwebショップとしても展開したいですね」



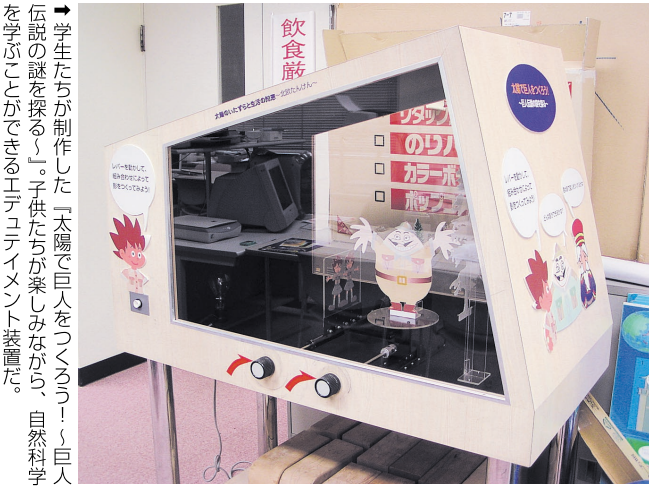
開園から20年以上たつ現在も、まったく人気がおとろえない『夢と魔法の王国』東京ディズニーランド。こんな街で暮らしたい...そう思ったことのある人も多いはずだ。実は、そこに生涯学習による街づくりのヒントがある。夢や感動のある社会を創るためには、いったい何が必要なのか？

■コミュニティ振興学部 塚原正彦 助教授に聞くーミュージアムによる街づくりとはー

夢と感動の街をつくる ディズニーランドの秘密

ディズニーランドから生涯学習の意味を学ぶ

ディズニーランドは世界で最も人気の高いアミューズメント施設。しかし、それと同時に優れた学習施設だと言ったら、きみは信じられるだろうか。「ディズニーランドには、いくつかの秘密が隠されています。まずは、それを解き明かしてみよう」



→学生たちが制作した「太陽で巨人をつくらう!」巨人伝説の謎を探る。子供たちが楽しみながら、自然科学を学ぶことができるエデュテイメント装置だ。

「まず、それぞれのテーマランドに設置されているアトラクションに秘密があります。例えば、シンデレラ城ミステリーツアーやピーターパン空の旅などがあるファンタジーランドは、童話、つまり文学を学ぶ空間です。また、アドベンチャーランドでは自然の大切さを学び、トゥモローランドでは未来科学を学ぶ。ディズニーランドは、遊びながら学ぶ施設なのです」



つかはら まさひこ 多摩大学大学院経営情報学研究所修士課程修了。専門はコミュニティミュージアム・都市経営戦略。日本ミュージアム・マネージメント学会理事。著書は『ミュージアム国富論』など。2000年4月より現職。

「これはある意味、街づくりの基本です。自分たちを取り巻く自然、歴史、文化を学び好きになる。そして、そこで生活する自分や地域にプライドを持ち、いい社会を自分たちの手で作り上げていく。つまり、地域に住む人たちがディズニーランドのキャストのような存在になればいいんです」

社会の現場で展開する実践に即した授業

また、学んだことはやってみるのが、塚原先生の授業の特色。「笠間市が主催する『笠間みらい観光博覧会』に学生たちが参加し、笠間の資源を使った新しい観光戦略や、商品開発案などを提案しました。さらに、学生が司会を務める地域フォーラムも開催。地域の人たちとカンパニーを作った、どのように事業化していったらいいかなど話し合い、かなり実践的な学習になったと思います。また、地域の人材を育てるために、10年計画のプロジェクトもスタートしました。これは地元の小学生に笠間市を深く知ってもらい、その素晴らしさを発表してもらおうもの。地域住民やPTAも巻き込んだ、大がかりな授業になりました」

日本独自の知的な遊び 庶民に浸透していた

しかし、どうして今このような学問が必要なのだろうか。「昔の日本には、伝統や文化を楽しむ庶民的な行事がたくさんありました。例えばお茶、季節ごとにテーマを設け

一環教育の一翼を担う



子どもの自主性、創造性を重んじた自由保育をモットー

に指導に当たってきた常磐短期大学附属幼稚園は、2005年4月より「常磐大学幼稚園」に名称を変更し、新たなスタートを切った。これは学校法人常磐大学が構想する、小・中学校、そして高校・大学に続く就学前児童を対象にした教育機関としての位置付けを明確にするもので、今後は、短期大学との相互関係を継続したまま、附属機関からの独立を推し進めていく方針だ。

常磐大学幼稚園名称変更



●キャンパスに隣接する幼稚園

幼児教育保育学科の英知を実践教育に還元するほか、生活科学科の食物栄養専攻と連携し手作り給食を提供。幼児教育保育学科の先生の協力のもと、体育遊びなどの実践的教育を取り入れてきた。今回の名称変更により、常磐大学幼稚園が一環教育の一翼を担うこと、こうした協力関係がさらに強まることも期待できる。

編集後記

情報のデジタル化は、非常に便利な社会システムを構築してくれた。しかし、その便利さは、ときに大きなリスクをもたらし、そのリスクをどうにか回避することは極めて難しい。だからといって、私たち現代人はデジタルを捨て去ることはできない。残された手段といえば、できる限りの自己防衛を行うことだ。そのために必要なのは、情報やデジタルに対するより多くの知識を身に付けること。情報メディアセンターは、現代を生きるための学びの場になることだろう。

\*TOPOSに対する御意見は kouhou@tokiwa.ac.jp. までお寄せ下さい。

\*古紙の利用・70%の再生紙を使用しています。